

EVERY SITE AT IT’S BEST.

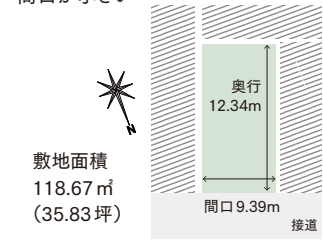


SITE DETAILS / REQUEST

PROJECT
01

敷地のポイント

- ・三方向隣接の狭小地
- ・間口が小さい



家族の要望

- ・近隣の視線が気にならない暮らし
- ・友人を招ける明るく開放的なリビング
- ・駐車スペース2台

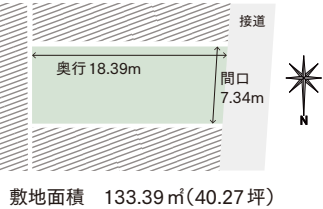


SITE DETAILS / REQUEST

PROJECT
02

敷地のポイント

- ・市街地の狭小地
- ・細長い敷地



家族の要望

- ・家族それぞれの居室
- ・明るく開放感のある家
- ・近隣の視線が気にならない暮らし

変形地や狭小地でこそ生きる
SE構法の真価

「広くて明るいリビングに憧れるけど、うちは狭小地だから」「変形地では、開放的な空間をつくるのは難しいよね」

そんな固定観念を覆してくれるのが、エムスタイルハウスの提案する「SE構法」の住まいです。

SE構法は、優れた耐震性を保ちながら、大胆で自由度の高い空間構成を可能にする木造建築技術。一般の在来工法に比べて柱や壁を少なくでき、視界や動線を遮らない伸びやかな空間を実現できます。

大空間や大開口はもちろん、木造3階建てにも対応。狭小地や変形地であっても、敷地の特性を生かすことで、光や風を取り入れながら、面積以上の広がりを感じられる空間がつけれます。SE構法は、制約の多い土地でこそ、その真価を発揮する構法なのです。

エムスタイルハウスでは、このSE構法をベースに、土地の個性を引き出す設計力と提案力、確かな技術力を掛け合わせることで、制約の多い敷地を、その家ならではの魅力へと変えていきます。こうして、あきらめていた理想の暮らしを形にしていけるのです。



No 14

Original Report

Builder /
Mstyle house

敷地条件にとらわれず
広々と暮らす

地価や建物費が高騰する今
狭小地や変形地を賢く生かす家づくりに
注目が集まっています。

「この敷地では広く開放的な暮らしは叶わないかも」と
あきらめる前に、SE構法を選択肢に加えてみませんか？

土地の制約を、その土地ならではの魅力に変えた
2棟の住まいをご紹介します。



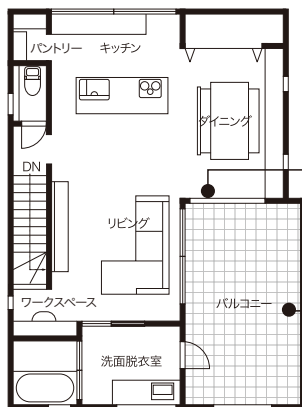
大空間をリクエストしていたリビングは、隣に10畳ほどのテラスを設けたことでたっぷりの光が入り、広々とした開放感のある空間に仕上がった。物干しスペースとしても活用できるテラスは、洗面脱衣室と隣接しているので、動線もスムーズ。浴室からすぐに出られるので、お風呂上がりの一杯が叶う。ゲストを招いてテラスでバーベキューをするなど、“庭”としても活躍している。寝室は、「近隣からの視線を遮りながら、いかに室内を明るくするか」に注力。基本は高窓から採光し、視線を遠ざけている。

PLAN POINT

1F面積：49.77㎡(15.03坪)
2F面積：61.27㎡(18.50坪)
延床面積：111.04㎡(33.52坪)
※バルコニー・ガレージ含まず

ガレージ面積：26.83㎡(8.10坪)
バルコニー面積：17.39㎡(5.25坪)

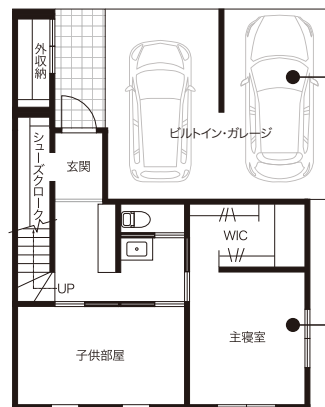
2F



最高ランクの「耐震等級3」と「2面の大開口」が両立できるのも、強固なSE構法だからこそ。内と外が心地よくつながることによって空間に一体感が生まれ、広々と開放的な暮らしを叶える。

高い壁でバルコニーを囲むことで、プライベート感のあるガーデン空間に。

1F



SE構法だから実現した、木造の大胆なオーバーハング構造。1階は車2台が停められるビルトイン・ガレージに。

1階は、周囲からの視線をさけるために高い位置に窓を設置。光も十分に取込める。

M邸は、家が立ち並ぶ住宅地にあります。夫妻の希望は、車2台分の駐車スペースと、周囲の視線を気にせず暮らせる開放的な住まい。しかし、敷地面積が限られている上、南と東には境界ぎりぎりまで隣家が迫っていることから、「この条件で心地いい家ができるの?」と、当初は不安だったそう。

エムスタイルハウスが導き出した答えは、家族が集まるリビングを2階に配置した、ビルトイン・ガレージハウス。SE構法ならではの強靱な構造を生かし、大胆なオーバーハング構造を実現。1階部分の開口を広く開放することで、敷地境界との距離を保ちながら、ゆとりある駐車スペースを生み出しました。

また、隣家が近く、窓を開けるにも制限のある環境を踏まえて、2階の一角に壁で囲まれたテラスを配置。LDKの2面とテラスを大開口でつなぐことで、十分な採光と視線の抜けを確保しました。リビングだけで25畳、ひと続きのテラスを合わせれば35畳もの大空間が広がります。

なんと、諦めかけていた「庭」まで叶えることができました。



駐車場も庭も、あきらめない
狭小地に広がる大空間リビング

PROJECT

01

須崎市 M邸



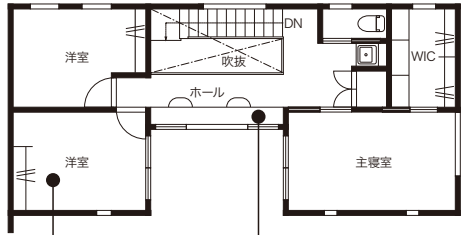
「縦列駐車も覚悟していたので、横並びで悠々と停められるガレージは夢のようです」とMさん夫妻。階段裏にワークスペースを設けてもらったことで、憧れの“書斎”まで手に入った。



PLAN POINT

1 F 面積： 55.06㎡(16.62坪)
2 F 面積： 53.00㎡(16.00坪)
延床面積：108.06㎡(32.62坪)

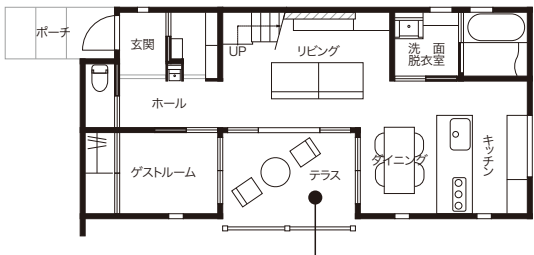
2F



2階にはプライバシーを完全確保した居室が3室。

2階ホールには家族全員で使えるカウンターが。

1F



細長い敷地条件を逆手に取り、住まいの中心に中庭を設置。SE構法ならではの高い構造強度により、3方の大開口から心地よい日差しが家全体へと届けられています。

K邸が立つのは、約80坪の敷地を2区画に分けた、細長い土地です。間口が狭くて奥行きがあり、隣家との距離も十分に取れないため、高度な設計力が求められる、条件の厳しい敷地でした。

プライバシーを考慮すれば、リビングを2階に置くのが理想的ですが、高齢のお母様との同居を見据え、「生活空間は1階に集約したい」という希望がありました。さらに、開放的なリビングと、成長した息子たちの個室を確保したいという要望も。こうした条件をかなえるために提

案したのが、コの字型の建物です。中央にテラスを設け、3面を大きな窓で囲むことで、外からの視線を遮りながら居室の奥まで光を届けるルートを確保しました。壁や柱を最小限に抑えられるので、すっきり広々。SE構法だからこそ実現した大開口が、細長い敷地特有の閉塞感を払拭し、驚くほどの開放感を生み出しています。限られた面積の中でも家族のプライベート空間と、明るく心地いい集いの場を両立。コンパクトなK邸には、家族の理想が余すことなく詰まっています。

間口が狭いという敷地の特性を生かすため、階段や通路もリビングの一部として設計。SE構法による大胆な開口が奥行きを生み、開放感を演出している。テラスを囲むコの字型の3面窓の存在も、抜け感を強調。2階部分にも同じく3面のガラス窓を採用して光を確保した。明るい2階の窓辺には長さ3m50cmのカウンターを造作。3人並んでも余裕で座れるワークスペースなら、仕事や勉強もはかどりそう。



PROJECT

02

長野市 K邸

細長い敷地の奥まで
光を届けるコの字型の住まい



階段下にテレビを収め、スペースを有効活用。吹き抜けなので、頭上からも光が降り注ぐ。自宅でも仕事ができるよう、2階の窓際にはワークスペースを設置。採光のためのテラスは、ちょっとした庭としても楽しめる。

